

平成 21 年度 関連職種連携実習

国際医療福祉大学

保健医療学部 看護学科 4 年 齋藤満里絵

理学療法学科 4 年 棚橋 由佳

平成 21 年 8 月、関連職種連携実習が行われた。この実習は本大学 3 学部 9 学科の 4 年生、各 1 名計 9 名が 1 つのチームで編成し、1 人の対象者のアセスメントを行って、総合サービス計画を作成する実習である。

この実習を通して、私たちは次の 3 つのことを学んだ。まず、自職種の強みを知ることである。実習中、私たちは自分の職種の強みは何なのかということを常に考えていた。自分の強み、つまり自職種の専門性を知ることによって役割が明確になり、連携が取りやすくなるのではないかと考えていたからである。

2 つ目に学んだことはコミュニケーションの重要性である。医療は多職種が入り混じった 1 つのチームで成り立っている。そのチームが円滑に、かつ効率的に動いていくためには、患者も含めたチーム内で情報交換を密に行い、各職種が自職種の役割を明確にして、活動していく必要がある。このためにはチーム内の円滑なコミュニケーションがなくてはならない。

最後に、私たちは包括的なチームアプローチの重要性を学んだ。私たちは実習以前、職種間連携とは患者を中心として各々の領域に特化した専門的なアプローチの集まりだと考えていた。しかし実際は、患者中心の視点は変わらないが、各職種が包括的なチームとしてアプローチを行っていかなくてはならないということを知ることができた。

私たちは 1 人の患者を通じた関連職種連携実習の中から、これらのことを実感することができた。